

2024年3月期 第3四半期決算説明

2024年2月6日

 山一電機株式会社

ご説明内容

【1】 FY2023 第3四半期業績結果

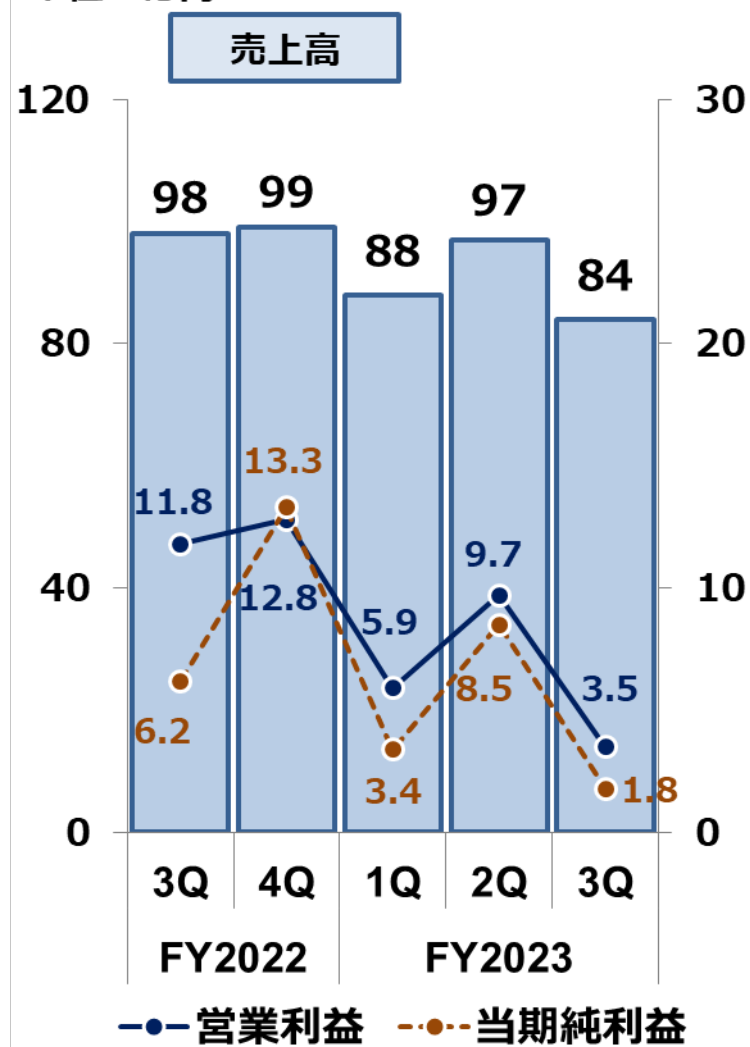
【2】 FY2023 通期業績予想

本説明資料内に記載の各事業名の略称について

事業名	事業名略称
テストソリューション事業	TS事業
コネクタソリューション事業	CS事業
光関連事業	OPT事業

業績結果

単位：億円



単位：億円	FY2022 3Q実績	FY2023 3Q実績	前年 同期比	前年同期 増減率
売上高	370	270	▲ 100	-27.1%
営業利益	78.5	19.2	▲ 59.2	-75.5%
経常利益	82.8	19.1	▲ 63.6	-76.9%
当期純利益	58.7	13.8	▲ 44.8	-76.4%
EPS (円)	281.37	67.60	▲ 213.77	----
BPS (円)	1705.07	1791.87	86.80	----

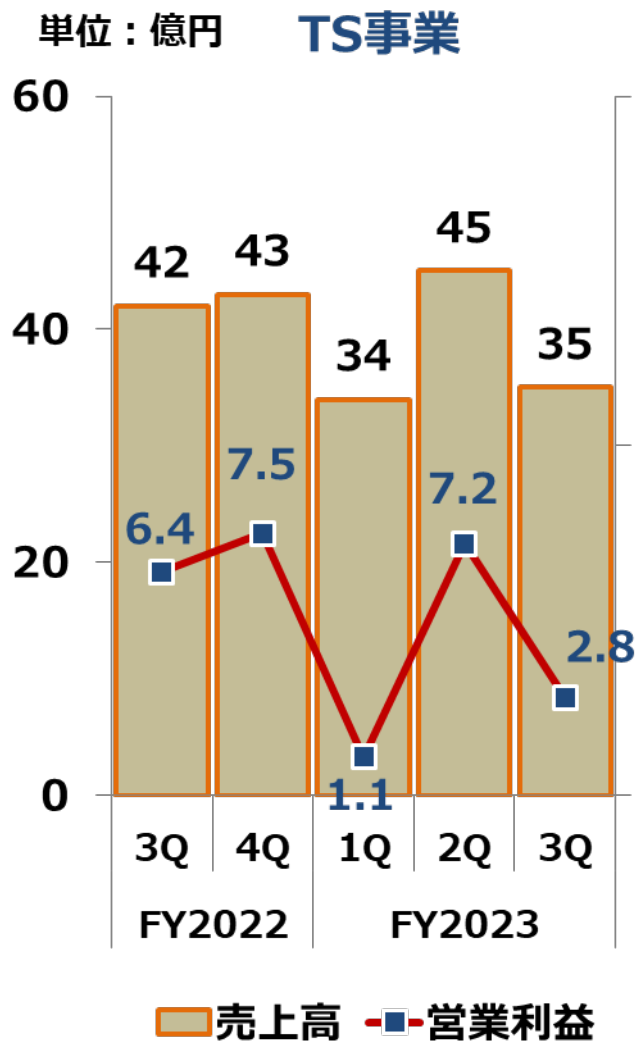
為替レート	FY2022/3Q	FY2023/3Q	増減
USD (円)	136.52	143.29	6.77
EUR (円)	140.58	155.29	14.71

事業別業績結果

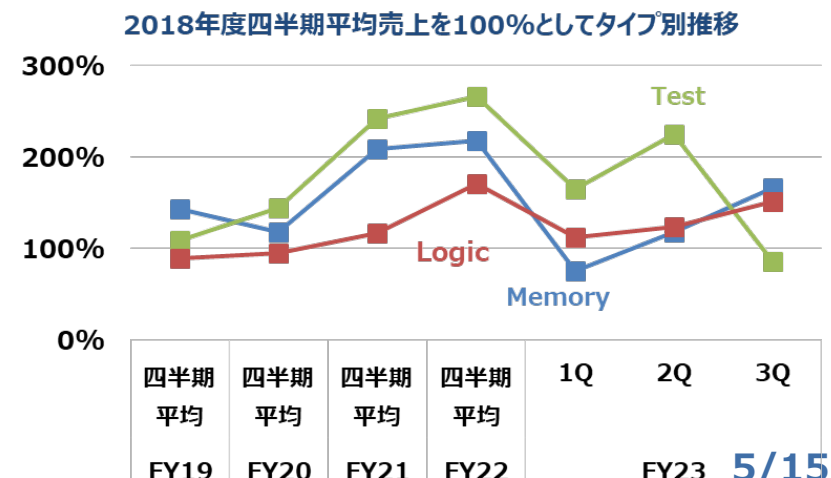
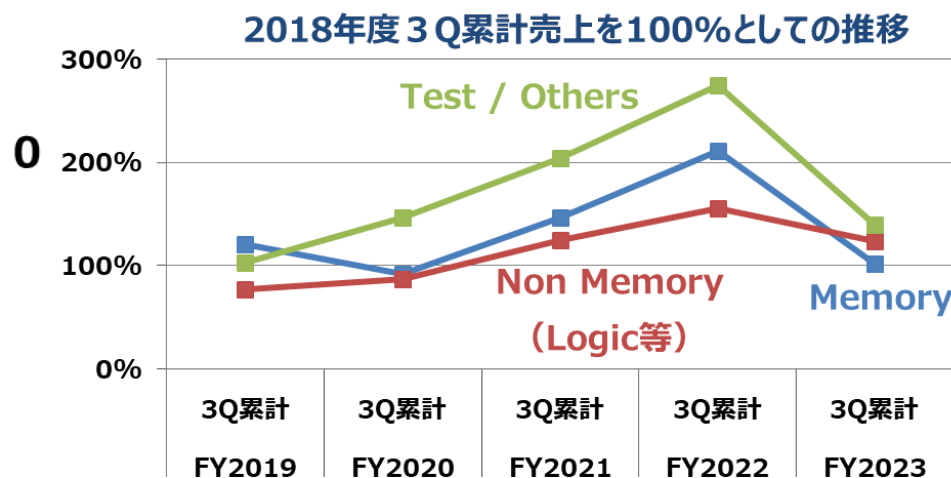
単位：億円		FY2022 3Q実績	FY2023 3Q実績	前年 同期比	前年同期 増減率
TS事業	売上高	198	115	▲ 82	-41.6%
	営業利益	63.4	11.3	▲ 52.0	-82.1%
CS事業	売上高	158	144	▲ 14	-9.0%
	営業利益	13.2	6.7	▲ 6.5	-49.3%
OPT事業	売上高	13	9	▲ 3	-26.8%
	営業利益	1.5	▲ 0.3	▲ 1.8	----
その他	営業利益 (連結調整額)	0.3	1.5	1.2	----
合計	売上高	370	270	▲ 100	-27.1%
	営業利益	78.5	19.2	▲ 59.2	-75.5%

TS事業 業績結果

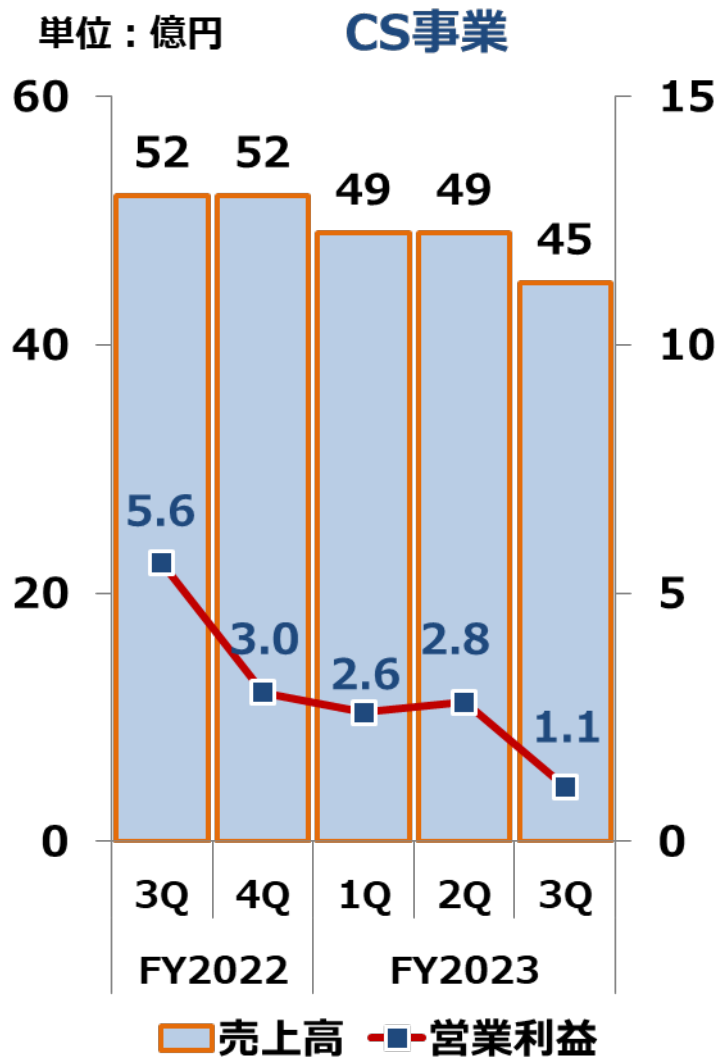
TS事業	前年同期比	前年同期増減率
売上高	-82億円	-41.6%
営業利益	-52.0億円	-82.1%



- ◆ テスト用ソケットは、スマートフォン向け及びPC向け製品にて低迷する市場環境から需要減の影響が続きました
- ◆ ロジック半導体用ソケットは自動車向け製品を中心に一部顧客での調整はあったものの概ね堅調に推移しました
- ◆ メモリ半導体向け製品は市場悪化による設備投資抑制の影響が続きましたが、在庫調整が進み投資が再開されました
- ◆ 原材料費やエネルギー価格の高騰に加え、新工場立ち上げ諸費用等で経費が増加しましたが、生産性ならびに品質改善を行い最小限の影響に留めました

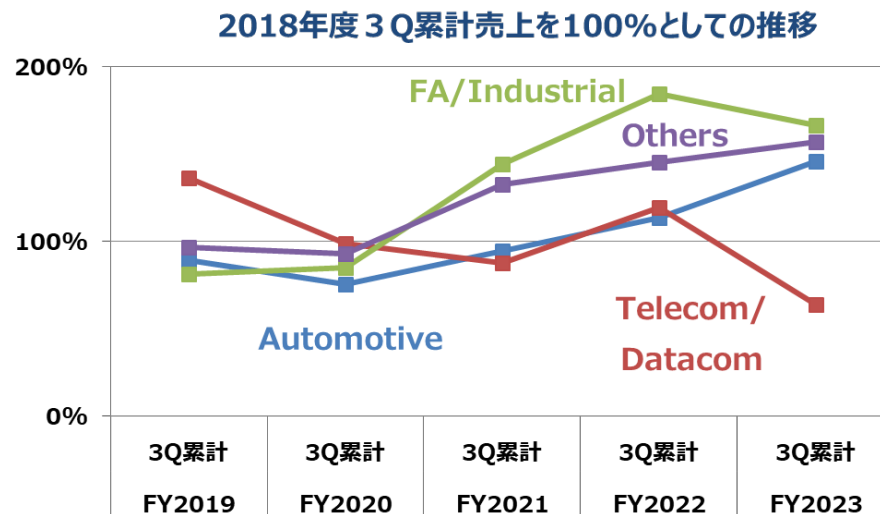


CS事業 業績結果



CS事業	前年同期比	前年同期増減率
売上高	-14億円	-9.0%
営業利益	-6.5億円	-49.3%

- ◆ 通信市場向け製品は、米中経済摩擦の影響が続いている中で、欧州では高速大容量伝送の需要拡大で堅調に推移しましたが北米顧客での長引く在庫調整の影響を受けました
- ◆ 産機市場向け製品は、主要市場である欧州顧客での在庫調整の影響を受けました
- ◆ 車載市場向け製品は、主要顧客の生産台数増および新製品出荷開始もあり好調に推移しました
- ◆ 原材料費やエネルギー価格の高騰に加え、新工場立ち上げ諸費用等で経費が増加しましたが、生産性ならびに品質改善を行い最小限の影響に留めました



為替影響

通貨	2022年度 3Q	2023年度 3Q	増減
USDレート (円)	136.52	143.29	+6.77
EURレート (円)	140.58	155.29	+14.71



対前年同期為替影響額	
売上高	15.5億円
営業利益	4.3億円

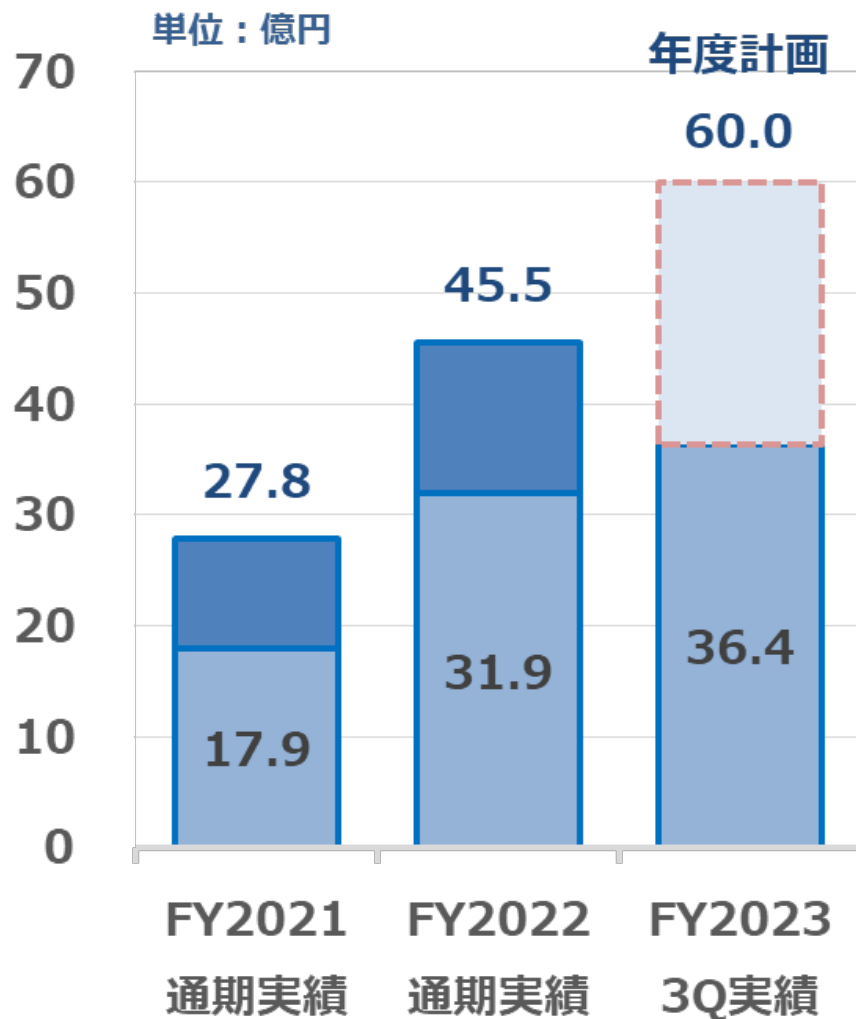
通期の為替感応度 (1円影響額/年間)	売上高影響額	営業利益影響額
USD	1.3億円	0.5億円
EUR	0.7億円	0.1億円

貸借対照表

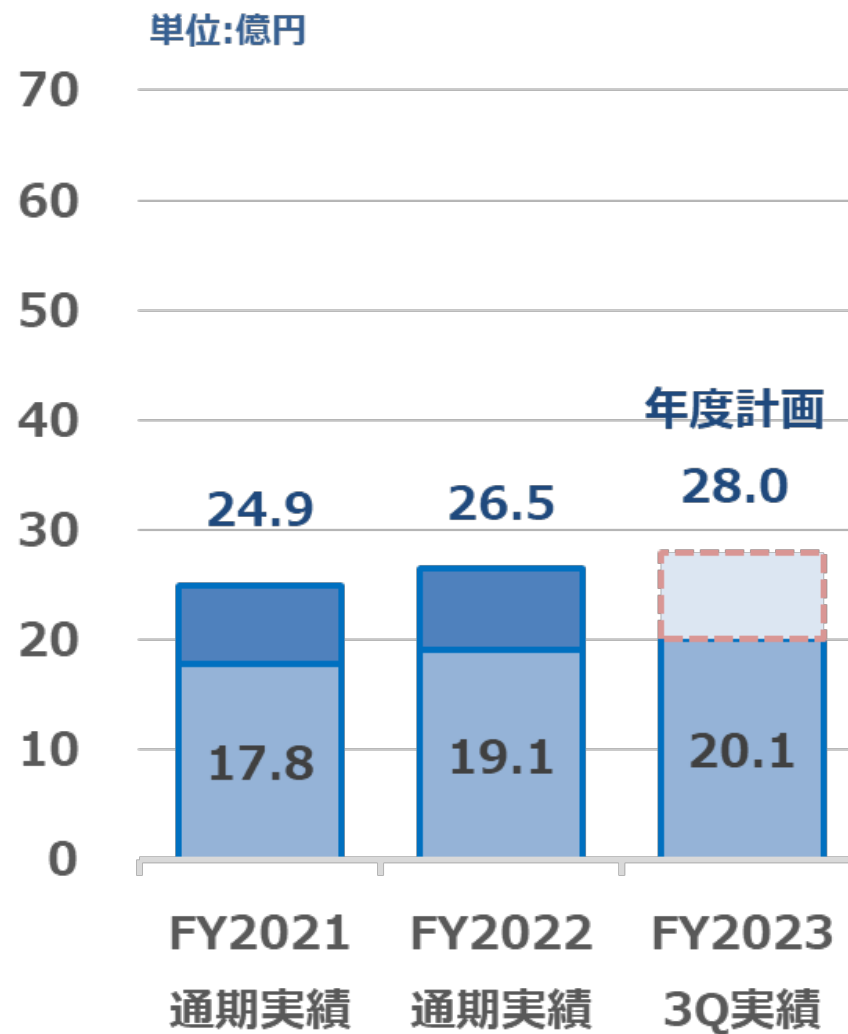
単位：億円	2023年 3月末	2023年 12月末	増減額	注記
流動資産	326.9	284.1	▲ 42.7	現金及び預金 : 34.5億円減少 (佐倉工場新棟及びフィリピン新規工場建設支出、 剰余金の配当及び自己株式の取得など)
固定資産	176.7	195.8	19.1	生産工場建設による建設仮勘定等
資産合計	503.6	480.0	▲ 23.6	
流動負債	104.2	79.9	▲ 24.3	未払法人税 : 8.4億円減少 賞与引当金 : 7.4億円減少
固定負債	29.2	32.1	2.8	
負債合計	133.5	112.0	▲ 21.5	
純資産合計	370.1	367.9	▲ 2.1	
負債純資産合計	503.6	480.0	▲ 23.6	

設備投資・減価償却費

設備投資額



減価償却費



サステナビリティ トピックス

◆ 山一電機グループのサステナビリティ活動をまとめた「サステナビリティレポート2023」を公開しました

- 山一電機グループは、経営理念である「人の尊重」、「企業価値の最大化」、「企業品質の向上」、「技術立社への挑戦」および「社会的役割の達成」のもと、財務戦略と非財務戦略の統合経営を目指し、各種施策を推進しています。本レポートは、当社グループのサステナビリティに対する取り組み、目標、実績数値などを幅広いステークホルダーの皆様へ報告するものです。
- 公開日：2023年12月22日



➢ 主な掲載内容

- トップメッセージ
 - サステナビリティ経営（基本方針、価値創造フレームワーク、推進体制など）
 - TCFD提言に基づく情報開示
 - 人材戦略の基本方針
 - コーポレートガバナンスの充実・強化
- 掲載URL：https://www.yamaichi.co.jp/ir/library/sustainability_report/

サステナビリティ トピックス

◆ TCFD提言への賛同に関するお知らせ

当社は、2023年12月22日に開催の取締役会において、気候関連財務情報開示タスクフォース※（以下、TCFD）提言への賛同を決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. TCFD提言への賛同

当社は、環境問題や社会課題の解決による持続可能な社会の実現は重要な経営課題であると認識しております。2023年3月より、代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置し、気候変動におけるリスクの認識とその管理を行っています。

気候変動への対応を一層推進するため、この度TCFD提言への賛同を行うことといたしました。

2. TCFD提言に基づく情報開示

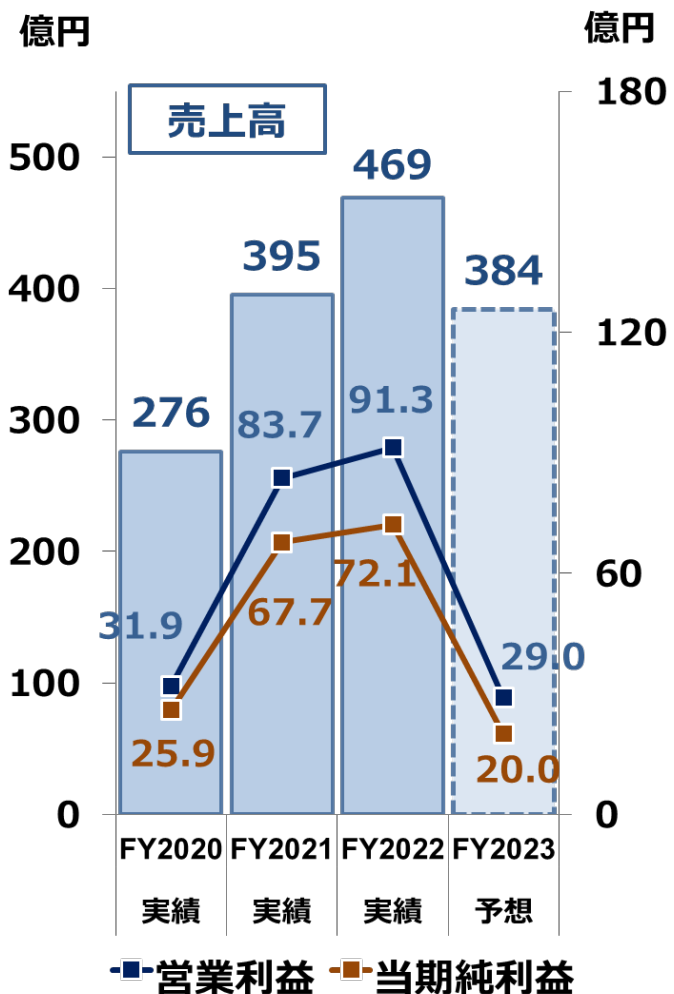
今後はTCFD提言が推奨する情報開示フレームワークに沿い、気候変動に関する「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の各項目について適切な情報開示を行ってまいります。

TCFD提言に基づく情報開示につきましては、以下をご参照ください。

<https://www.yamaichi.co.jp/sustainability/tcfd/>

FY2023通期 業績予想

2024年3月期の連結業績予想（通期）につきましては、
2023年11月7日に公表いたしました予想値に変更はありません



単位：億円	FY2022 通期実績	FY2023 通期予想			
		期初予想	11月7日 修正予想	前年 同期比	前年同期 増減比
売上高	469	420	384	▲ 85	-18.2%
営業利益	91.3	66.0	29.0	▲ 62.3	-68.3%
経常利益	94.5	64.4	28.5	▲ 66.0	-69.8%
当期純利益	72.1	45.0	20.0	▲ 52.1	-72.3%
EPS (円)	346.08	217.01	97.50	▲ 248.58	----

2023年度通期連結業績予想の前提となる為替レート

為替レート	FY2022	FY2023	増減
USD (円)	135.47	144.00	8.53
EUR (円)	140.97	155.00	14.03

FY2023通期 事業別業績予想

単位：億円		FY2022 通期実績	FY2023 通期予想			
			期初予想	11月7日 修正予想	前年 同期比	前年同期 増減比
TS事業	売上高	242	205	171	▲ 71	-29.3%
	営業利益	70.9	50.0	17.0	▲ 53.9	-76.0%
CS事業	売上高	210	198	200	▲ 10	-5.1%
	営業利益	16.3	15.0	10.7	▲ 5.6	-34.4%
OPT事業	売上高	17	17	13	▲ 3	-21.2%
	営業利益	1.8	1.0	▲ 0.8	▲ 2.6	----
その他	営業利益 (連結調整額)	2.2	0.0	2.1	▲ 0.1	-8.4%
合計	売上高	469	420	384	▲ 85	-18.2%
	営業利益	91.3	66.0	29.0	▲ 62.3	-68.3%

FY2023通期 事業別業績予想

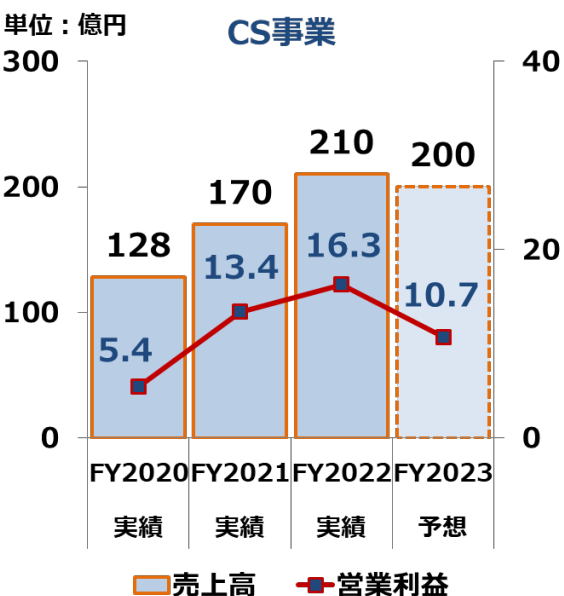
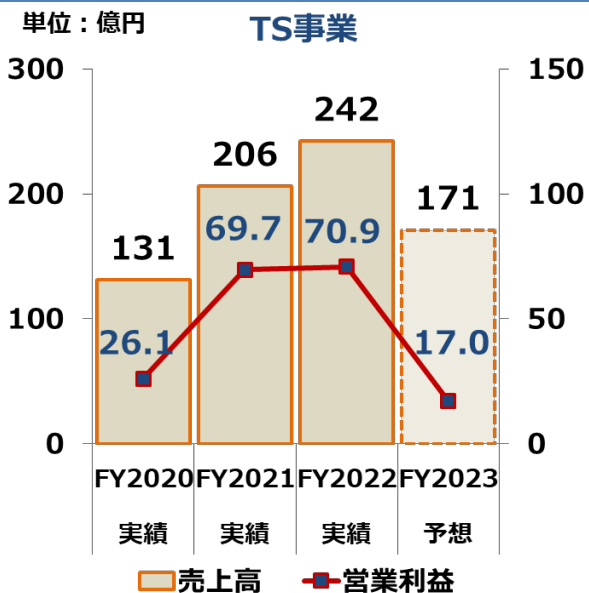
原材料費やエネルギー価格の高騰に加え、新工場の立ち上げ諸経費増加による影響が続くと予想されますが、継続して影響を最小限に留めるべく活動を進めてまいります

TS事業：

- ◆ テストソケットはスマートフォン向け製品を中心に来年度モデル向け新製品の出荷がスタートすると見込んでおります
- ◆ メモリ半導体用ソケットはDRAM向けの投資再開での回復を見込んでおります
- ◆ ロジック半導体用ソケットは自動車向けは堅調に推移することに加えネットワーク向け新製品の立ち上がりを見込んでおります

CS事業：

- ◆ 通信市場向け製品は、米中経済摩擦の影響がありますが、北米顧客での在庫調整が進み回復を見込んでおります
- ◆ 産機市場向け製品は、主要市場である欧州顧客での在庫調整が長期化し、期を通して影響が出ることを見込んでおります
- ◆ 車載市場向け製品は、主要顧客の生産台数増加が見込まれることに加え新製品の出荷効果も期待でき好調な推移を見込んでおります



ご清聴ありがとうございました

(期末決算発表日 2024年5月14日 (火) 15:00予定)

※注意事項

本資料は、2024年2月6日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更する場合があります。

問合せ先：経営管理部広報課 古畑 利之

TEL：03-3734-7661 FAX: 03-3734-0120

<http://www.yamaichi.co.jp>

E-mail: furuhata@yamaichi.co.jp